

コア事業を着実に伸長させ中計最終年度を締めくくる

—13/3第2四半期の実績と通期見込—

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2167

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

目次

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

【連結業績サマリー】

第2四半期の実績と通期見込 1

【加工食品事業】

第2四半期の実績と通期見込 2

調理冷凍食品の販売は順調に推移、下期も計画通りの進捗を見込む 3

海外関係会社の主な動き 4

【水産・畜産事業】

第2四半期の実績と通期見込 5

【低温物流事業】

第2四半期の実績と通期見込 6

TC拠点拡大は計画通り進捗。業務最適化で支出を最小限に抑制 7

貨物が集中する東京・大阪圏で更なる集荷拡大を図る 8

欧州では輸配送の成長基盤を拡充する 9

【参考資料】

データ集 10～14

注:

- ① 当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。
- ② 「前回見込」は2012年8月7日に発表した見込を、「E」、「見込」は2012年11月6日に発表した今期の見込を示している。

第2四半期の実績と通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	実績	第2四半期(累計)					第3・4四半期(累計)					通期				
		前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		
		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減	
加工食品	905	36	4%	922	-17	945	72	8%	928	17	1,850	108	6%	1,850	0	
水産	313	-14	-4%	326	-13	332	2	1%	334	-2	645	-12	-2%	660	-15	
畜産	366	-9	-3%	380	-14	379	-1	-0%	400	-21	745	-11	-1%	780	-35	
低温物流	782	34	5%	774	8	758	11	1%	766	-8	1,540	45	3%	1,540	0	
不動産	23	-3	-11%	25	-2	25	1	5%	25	-0	48	-1	-3%	50	-2	
その他	27	-1	-5%	29	-2	34	2	6%	32	2	61	1	1%	61	0	
調整額	-101	7	-	-116	15	-108	-6	-	-115	7	-209	1	-	-231	22	
売上高合計	2,316	50	2%	2,340	-24	2,364	80	4%	2,370	-6	4,680	131	3%	4,710	-30	
加工食品	30	5	19%	28	2	30	4	14%	32	-2	60	8	16%	60	0	
水産	-1	-6	-	0	-1	1	3	-	4	-3	0	-2	-	4	-4	
畜産	2	-1	-28%	3	-1	5	3	134%	4	1	7	2	33%	7	0	
低温物流	42	5	14%	41	1	37	-0	-0%	37	0	79	5	7%	78	1	
不動産	11	-1	-7%	10	1	11	-1	-6%	11	-0	22	-2	-7%	21	1	
その他	2	-0	-19%	1	1	2	-0	-16%	3	-1	4	-1	-17%	4	0	
調整額	-1	-1	-	-2	1	-1	-1	-	1	-2	-2	-2	-	-1	-1	
営業利益合計	85	1	2%	81	4	85	7	9%	92	-7	170	8	5%	173	-3	
経常利益	82	4	5%	78	4	81	6	8%	87	-6	163	10	7%	165	-2	
当期純利益	63	21	50%	52	11	50	13	35%	48	2	113	34	43%	100	13	
		ROE	9%	3%		8%	1%			ROE	9%	3%		8%	1%	
		EPS	38円	12円	45%	34円	4円			EPS	38円	12円	45%	34円	4円	

◆上期の状況

1. 売上高

主力の加工食品と低温物流がそれぞれ4%、5%と伸長し、全体でも前年比2%の増収。

2. 営業利益

加工食品と低温物流が水産の減益をカバーし、全体では1億円の増益。

3. 経常利益・当期純利益

当期純利益は投資有価証券の売却益などにより21億円の増益。

◆通期の状況

1. 売上高

下期は加工食品が全体を牽引し前年比4%の増収を見込む。通期では3%の増収を見込む。

2. 営業利益

下期は加工食品の寄与に加え、水産、畜産共に事業環境が厳しかった前年の反動増もあり7億円の増益を見込む。通期では8億円の増益を見込む。

3. 経常利益・当期純利益

当期純利益は下期、通期それぞれ13億円、34億円の増益を見込む。

加工食品事業

第2四半期の実績と通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

営業利益の対前年比増減要因

単位: 億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

単位: 億円

	第2四半期(累計)			第3・4四半期(累計)			通期			
	実績	前年同期間比	前回見込比	見込	前年同期間比	前回見込比	見込	前年同期間比	前回見込比	
		増減	増減		増減	増減				
加工食品	売上高 計	905	36	-17	945	72	17	1,850	108	0
	家庭用調理品	263	5	-2	277	14	8	540	19	6
	業務用調理品	410	12	0	431	18	2	841	30	2
	健康価値	25	-4	-6	22	1	-8	47	-3	-14
	その他	207	23	-9	215	39	15	422	62	6
	営業利益	30	5	2	30	4	-2	60	8	0

	第2四半期(累計)	第3・第4四半期(累計)	通期
	実績	見込	見込
12/3期 営業利益	26	26	52
調理冷凍食品増収効果	3	4	7
生産性改善	2	1	3
原材料・仕入コストの変動額	2	-1	1
GFPTニチレイの業績影響額	-2	2	0
その他	-1	-2	-3
13/3期 営業利益	30	30	60

◆上期の状況

1.売上高

前年比4%の増収。中食化傾向が続く中、家庭用はチキン加工品、米飯類が引き続き好調に推移し2%の増収。業務用も好調なチキン加工品に加え、前年の生産工場の震災影響から回復した春巻などの販売増加も寄与し3%の増収。

2.営業利益

- ①タイ国内の鶏肉(生肉)相場の下落によるGFPTニチレイのマイナス影響を増収効果などで吸収し5億円の増益。
- ②原材料コストについては、当初は上昇を見込んでいたが、前年を下回った。包装資材、えびなどの価格は上昇したが、国内鶏肉価格の下落や米の調達方法の工夫などで吸収。

◆通期の状況

1.売上高

下期も家庭用、業務用ともに主力のチキン加工品などが牽引し、上期の好調なトレンドが持続すると想定。通期では前年比6%の増収を見込む。その他は下期より新たに連結対象となったイノバジアン・クイジーン社が寄与。

2.営業利益

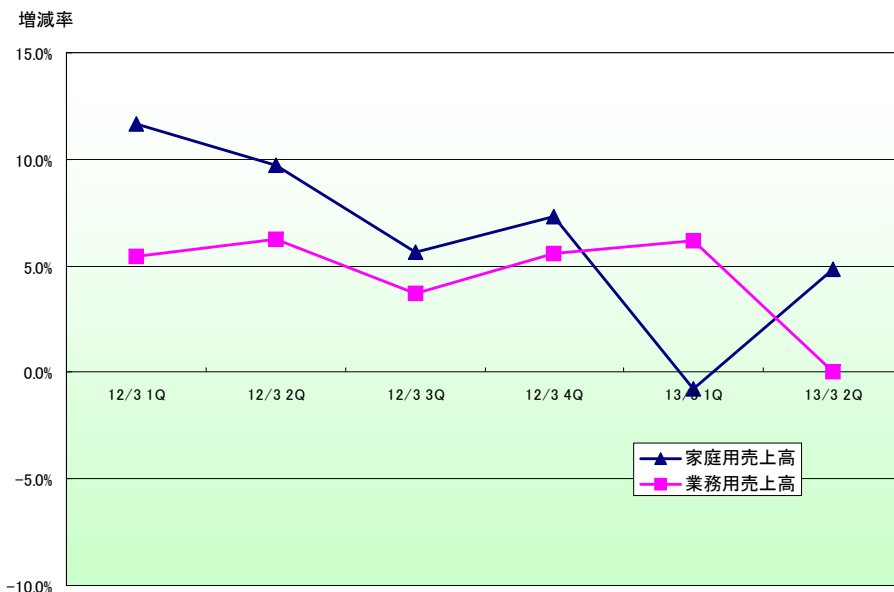
- ①下期は増収効果に加え、GFPTニチレイの稼働改善などが寄与し、通期では8億円の増益を見込む。
- ②下期の原材料コストは、海外OEM先からのチキン加工品の仕入コスト上昇に加え、米や油などの価格上昇などもあり、前年より1億円増加する見込。

<加工食品事業>

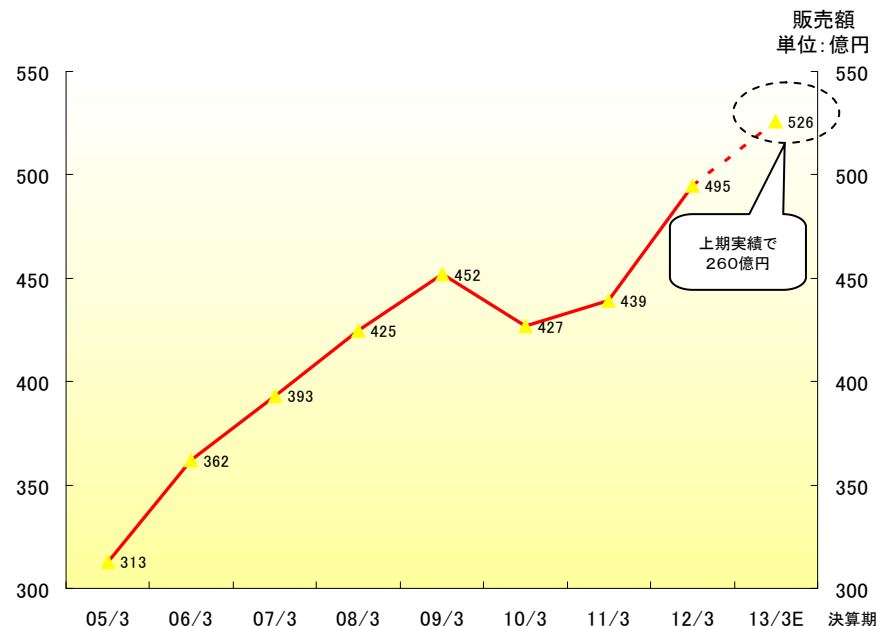
調理冷凍食品の販売は順調に推移、下期も計画通りの進捗を見込む

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

当社の家庭用・業務用調理冷蔵の売上高前年比増減率推移



当社のチキン加工品販売金額推移(日本国内販売のみ)



1.上期の状況

- ①家庭用: 1Qは前年の震災特需による反動が出たものの、2Qは好調なチキン加工品に加え米飯類も大きく伸長。上期ではマーケットの伸びを若干下回るが、前年比で2%の増収。
- ②業務用: 2Qはチキン加工品で一部採算性の低い商品をカットした影響などもあり前年並みとなったが、上期では3%の増収。

2.下期に向けた打ち手

- ①家庭用: 消費者キャンペーンや増量企画の実施により、秋の棚替で拡大した売場の商品回転を高める。
- ②業務用: 重点得意先への主力商品(コロッケ、食肉加工品など)の拡販を強化する。
- ③チキン加工品については中食市場向けを中心に引き続き拡販し、今期計画通り通期で売上高526億円を見込む。

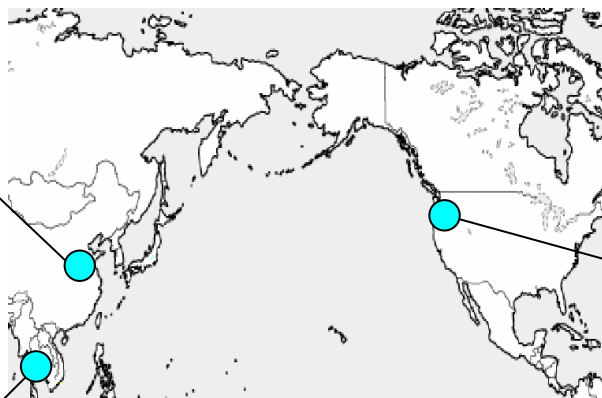
海外関係会社の主な動き

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

【泰安佳裕食品(中国)】

冷凍野菜の生産

6月からいんげん、おくら、枝豆の生産を開始。当面は日本向けの生産を優先するが、13年度以降に中国向けの販売も開始予定。



【GFPTニチレイ(タイ)】

チキン加工品の生産・販売

1. 上期は加工品の生産拡大により、加工ラインでの収益性は改善したものの、タイ国内の鶏肉(生肉)販売相場の下落が響き赤字幅の縮小は進まなかった。
2. 下期は穀物相場の高騰に伴う生鳥の仕入コスト上昇など厳しい環境が続くが、以下の打ち手を実行し収益性改善に取り組む。
 - ① 日本向けムネ肉・手羽加工品の商品開発推進(来春製品化予定)
 - ② 欧州向けムネ肉加工品でより高付加価値な商品の販売に注力
 - ③ スローターラインの収益性改善
 - ・作業員の効率改善による人件費削減
 - ・脱骨作業などの機械化推進による省人化
3. 生肉相場変動リスクを最小化する為、加工ラインを増設し来年6月から稼働させる。現在フル生産している2ラインを3ラインにすることで、国内市場で販売している生肉を付加価値の高い加工品にする余力が生まれる。

【イノバジアン・クイジーン(アメリカ)】

冷凍食品の企画・販売

大手量販店(ウォルマートなど)を主要顧客とし、アジアンフードを中心とした冷凍食品を企画・販売。業務用(デリカを含む)と家庭用を共に取扱う。2012年度見込の売上規模は約41億円(1米ドル80円で計算)。



水産・畜産事業

第2四半期の実績と通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第2四半期(累計)					第3・4四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	313	-14	-4%	326	-13	332	2	1%	334	-2	645	-12	-2%	660	-15
	営業利益	-1	-6	-	0	-1	1	3	-	4	-3	0	-2	-	4	-4
畜産	売上高	366	-9	-3%	380	-14	379	-1	-0%	400	-21	745	-11	-1%	780	-35
	営業利益	2	-1	-28%	3	-1	5	3	134%	4	1	7	2	33%	7	0

【水産】

- 1.上期は鮭鱒・北方凍魚、タコなどの急激な相場下落に伴い、単価、利益率とも低下し前年比4%の減収、6億円の減益。相場変動にともない発生した高値在庫は上期中にほぼ入替が終わった。
- 2.下期は年末商材を期間内に売り切ることに注力する。環境の厳しかった前年の反動もあり1%の増収、3億円の増益を見込む。あわせて通期での黒字化達成に向け固定費の削減を実施する。
- 3.ユーザールートへの取組と加工品取扱いの強化による相場に左右されにくい体制作りは引続き行う。

【畜産】

- 1.上期は全般的に販売数量は伸長したものの、市中の輸入チキンダブつき解消が進まず鶏・豚の単価が下落し、3%の減収、1億円の減益となった。
- 2.下期もチキンの市中在庫は高水準を見込むが、輸入チキンの調達方法見直しと加工品への注力で収益性を高め、売上高は前年並ながら営業利益は3億円の増益を見込む。通期では1%の減収、2億円の増益へ。
- 3.最適加工度商材の個別提案によりユーザールート向けの取扱拡大を図る。

低温物流事業

第2四半期の実績と通期見込

単位:億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第2四半期(累計)			第3・4四半期(累計)			通期		
		実績	前年 同期間比	前回見込比	見込	前年 同期間比	前回見込比	見込	前年 同期間比	前回見込比
			増減	増減		増減	増減		増減	
低温 物流	売上高 計	782	34	8	758	11	-8	1,540	45	0
	物流ネットワーク	445	32	6	431	12	-1	876	43	5
	地域保管	240	7	2	227	1	-2	467	8	0
	海外	93	-2	0	85	-8	-7	178	-10	-7
	その他・共通	4	-2	0	15	7	2	19	4	2
	営業利益 計	42	5	1	37	-0	0	79	5	1
	物流ネットワーク	20	7	2	15	-1	-1	35	6	1
	地域保管	23	2	-1	21	1	-0	44	3	-1
	海外	4	-2	-0	2	-1	-1	6	-3	-1
	その他・共通	-5	-1	0	-1	1	2	-6	-0	2

営業利益の対前年比増減要因

単位:億円

	第2四半期(累計)	第3・4四半期(累計)	通期
	実績	見込	見込
12/3期 営業利益	37	37	74
増益要因	11	5	16
【ネット】TC新設効果	1	1	2
【ネット】業務改善	4	0	4
【ネット】前年震災影響剥離	2	0	2
【地域保管】業務改善	3	3	6
【地域保管】増収効果	1	0	1
その他・共通	0	1	1
減益要因	-5	-5	-10
国内電気料金影響額	-2	-2	-4
【ネット】TC取扱量減少	0	-2	-2
【海外】果汁回転低下	-2	-1	-2
【海外】為替換算影響	-1	-1	-1
その他・共通	-1	0	-1
13/3期 営業利益	42	37	79

◆上期の状況

全体

売上高は国内事業が牽引し全体で前年比5%の増収。営業利益は物流ネットワークが寄与し5億円の増益。

1. 物流ネットワーク

8%の大幅増収、7億円の増益。業務改善やTC(通過型センター)の新設効果が寄与。

2. 地域保管

3%の増収、2億円の増益。高水準の在庫率と業務の効率化が寄与した。

3. 海外

2%の減収、2億円の減益。ユーロ安・燃油高の全般的影響に加え、欧州の景気後退により前年好調だった果汁の回転が落ちている。

◆通期の状況

全体

下期は売上高は前年比1%の増収、営業利益は前年並を見込む。通期では3%の増収、5億円の増益。

1. 物流ネットワーク

下期はTC通過高の減少を想定し3%の増収、1億円の減益。通期は5%の増収、6億円の増益。

2. 地域保管

下期は売上高は前年並、1億円の増益を見込む。乳製品等の一部取扱いが減少するが業務効率化で利益は改善。通期は2%の増収、3億円の増益。

3. 海外

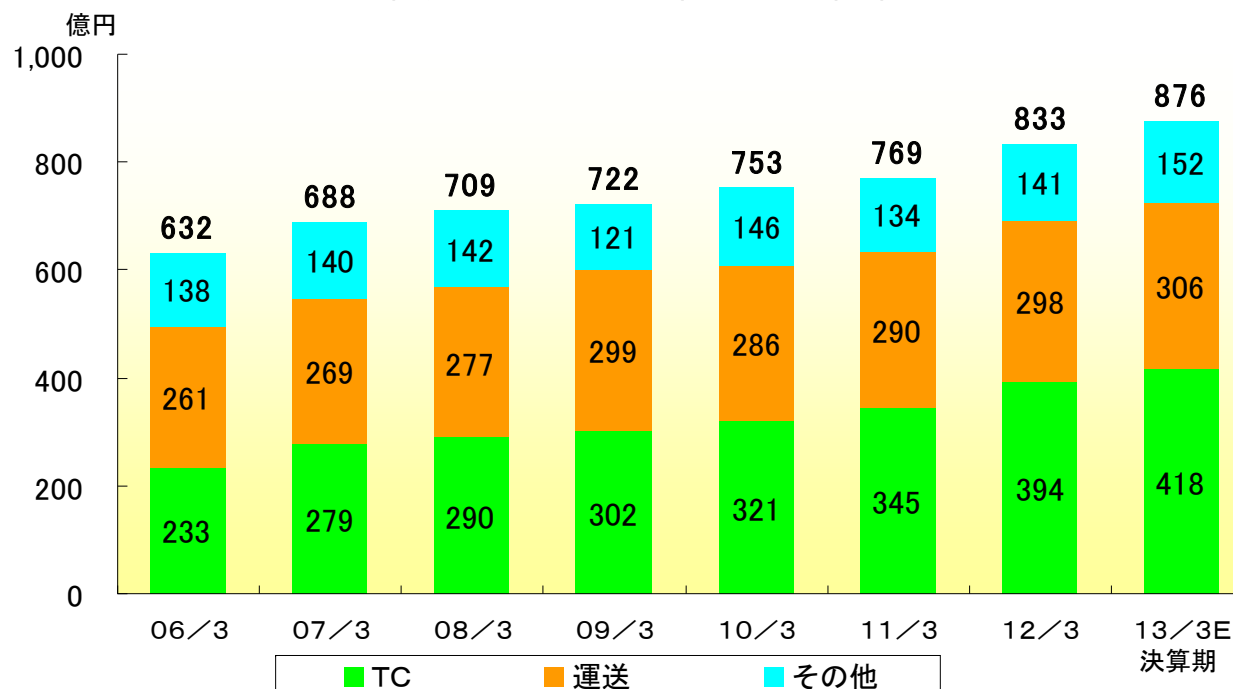
下期は9%の減収(現地通貨は増収)、1億円の減益。燃油や人件費等のコスト上昇の影響を受ける。通期は6%の減収、3億円の減益。

TC拠点拡大は計画通り進捗。業務最適化で支出を最小限に抑制

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

1. 上期は前年度に稼働開始した新設拠点が寄与したことに加え震災影響の反動もありTC(通過型センター)事業を中心に伸長。
2. 下期は一部量販店での売上減少に伴うTC通過高減少の影響を見込んでいるが、売り上げに応じた最適な人員、車両等の配置を図ることで影響を最小限にとどめる。
3. TCの今年度新設拠点の稼働ならびに次年度の受託は計画通りに進捗。再来年度以降の案件についても現在商談が進行中。

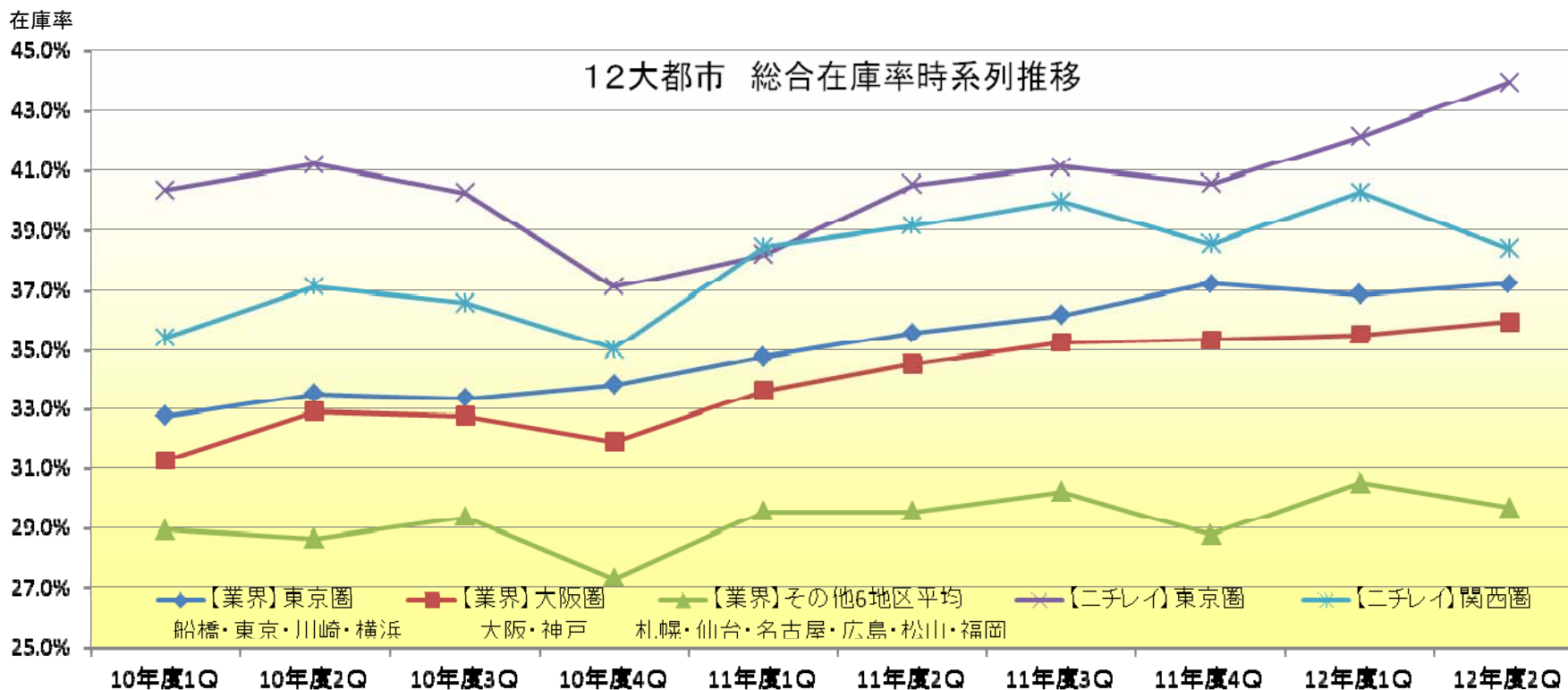
物流ネットワークの部門別売上高推移



貨物が集中する東京・大阪圏で更なる集荷拡大を図る

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

1. 東京・大阪の二大都市圏では在庫率は高水準を維持。大消費地への貨物の集中化傾向が続く中、拠点の新設や施設の借上げ、再保管の活用などにより積極的に貨物の取込を図る。
2. 東京圏では来年7月完成予定の東扇島2期棟(4万トン)に加え川崎地区で外部倉庫の借上げを行い今後の集荷拡大に備える。
3. 大阪圏では拠点新設の検討を続けると共に外部倉庫の確保を進める。



日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工

欧州では輸配送の成長基盤を拡充する

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

1. 欧州では果汁の在庫回転減少など景気後退の影響が一部に出ているが、集荷活動に注力した結果現地通貨ベースの売上高は前年を上回る見通し。
2. フランスでのスイッチセンター（輸送貨物積替拠点）増強やポーランドでのTC業務への新規設備導入など、輸配送の基盤整備を通じて収益性の改善とサービスの向上を図る。

会社名	事業内容	立地	設備能力 (m ³)	13/3期売上高見込 (百万ユーロ)	前年比	各社の状況
Eurofrigo ユーロフリゴ	冷蔵倉庫	オランダ(ロッテルダム2拠点、 フェンロ2拠点、ルールモンド)	581,250	24.5	101%	畜肉を中心に貨物は安定して推移。
Hiwa Rotterdam port Cold Stores ヒワ ロッテルダム ポート コールド スタアーズ	冷蔵倉庫	オランダ(ロッテルダム)	393,125	23.6	94%	上期は果汁の消費が低下し在庫回転が悪化。 下期は新規貨物の獲得により回復を見込む。
Thermotraffic Holland テルモトラフィック オランダ	運送(備車) フォワーディング	オランダ(ロッテルダム、フェンロ) ベルギー(アントワープ)	-	31.4	96%	一部顧客の取扱が減少。新規顧客開拓やHIWAとの連携強化で回復を図る。
Thermotraffic Germany テルモトラフィック ドイツ	運送(備車) フォワーディング	ドイツ(ハンブルグ他) フランス(アラス) イギリス(ルートン)	-	68.9	110%	保税貨物や新規顧客の取扱拡大により伸長。
Frigo Logistics フリゴロジスティクス	冷蔵倉庫 運送(備車)	ポーランド(ズニン、ラドムスコ)	173,750	14.1	121%	TC顧客の取扱拡大により伸長。ボイスピッキングやフローラックの活用で効率性を高める。
Godfroy ゴドフロア	冷蔵倉庫 自社運送	フランス(カルピケ、コロンベール、 ルアーブル)	98,800	22.4	101%	景気影響による売り上げ減を新規顧客獲得でカバー。リヨンのスイッチセンターを増強し輸配送効率を高める(13年10月稼働)。

參考資料

2013年3月期第2四半期 連結バランスシートの変動要因

単位:億円(未満切り捨て)

科目	12/9	12/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,236	1,154	81	①
固定資産	1,695	1,750	-54	②
資産の部合計	2,932	2,905	26	
〔負債・資本の部〕				
流動負債	862	841	21	
固定負債	846	876	-30	
負債の部合計	1,709	1,718	-9	③
純資産の部	1,223	1,187	36	④
(うち株主資本)	1,214	1,165	48	
有利子負債	991	978	13	⑤
(うちリース債務除く)	769	748	21	
科目	12/9	11/9	増減	
設備投資額	43	46	-3	
(うちリース資産除く)	31	35	-3	
減価償却費	70	74	-3	
(うちリース資産除く)	51	55	-3	

【主な要因】

- ① 売上げの増加や季節的要因により売上債権が56億円増加。また、手元流動性を高めたことなどにより現金及び預金が35億円増加。
- ② 投資有価証券の売却や時価評価額の減少などにより投資その他の資産が29億円減少。
- ③ 法人税等の確定納付などにより未払法人税等が10億円減少。
- ④ 四半期純利益63億円の計上、配当金の支払い14億円などにより利益剰余金が48億円増加。一方で、投資有価証券の売却や時価評価額の減少に伴い、その他有価証券評価差額金は15億円減少。
- ⑤ 営業資金の増加に加え、手元流動性を高めたことなどにより13億円増加。

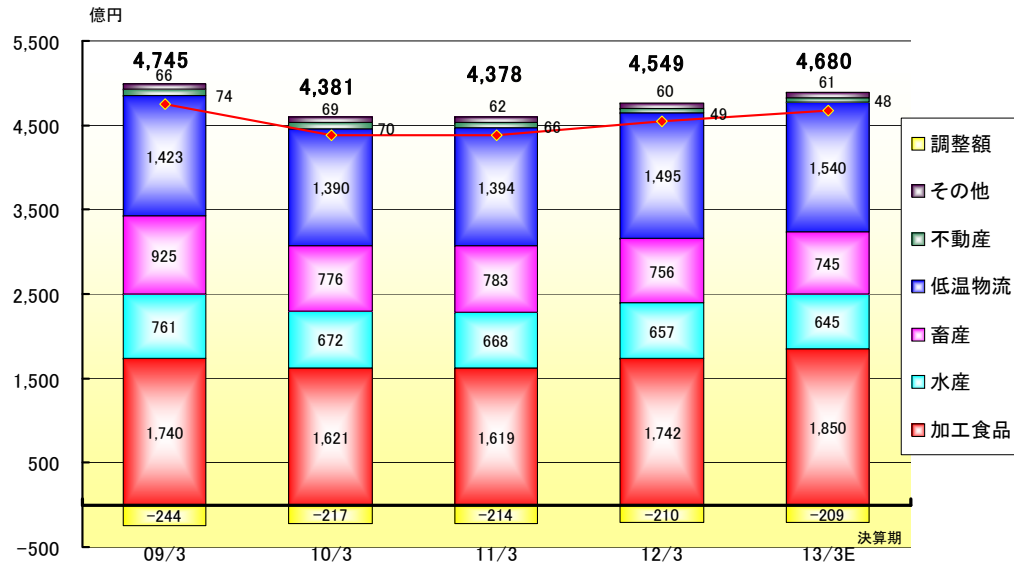
2013年3月期第2四半期 営業外収支・特別損益の変動要因

単位:億円(未満切り捨て) プラス表示は利益を示す		第2四半期(累計)					通期		
		12/9	11/9	増減			見込	12/3	増減
【営業外収支】		-2	-5	+2	【営業外収支】		-7	-9	+2
(主要項目)					(主要項目)				
金融収支		-3	-3	-0	金融収支		-10	-8	-2
【特別損益】		11	-7	+19	【特別損益】		12	-10	+22
(主要項目)					(主要項目)				
投資有価証券売却益		10	1	+9	投資有価証券売却益		10	1	+9
固定資産売却益		4	4	-0	固定資産売却益		4	7	-3
災害損失引当金戻入額	①	-	1	-1	災害損失引当金戻入額	①	-	4	-4
災害による損失	①	-	-3	+3	災害による損失	①	-	-3	+3
投資有価証券評価損	②	-1	-6	+5	投資有価証券評価損	②	-1	-6	+5
固定資産除却損		-1	-1	-0	固定資産除却損		-3	-5	+2
減損損失		-	-1	+1	減損損失		-0	-5	+5

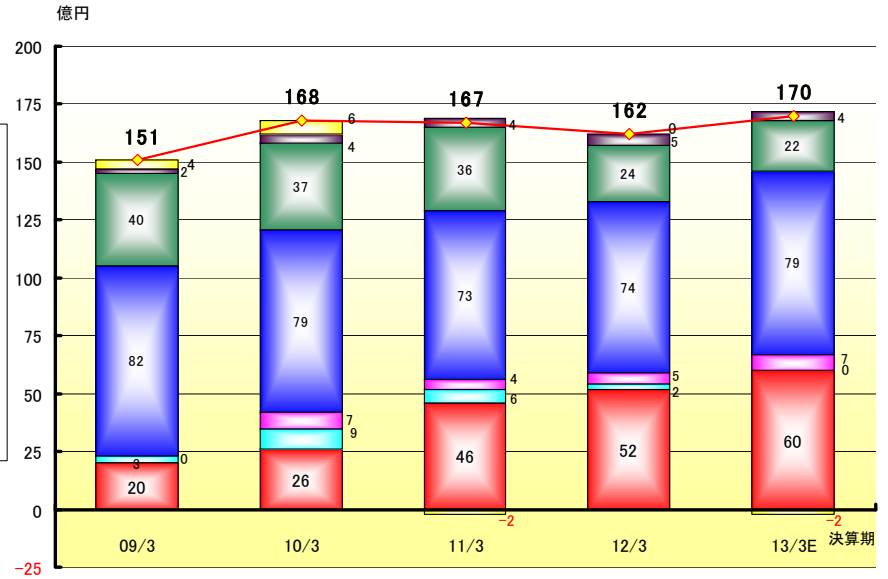
①東日本大震災に伴う特別損益

②株価下落に伴う特別損失

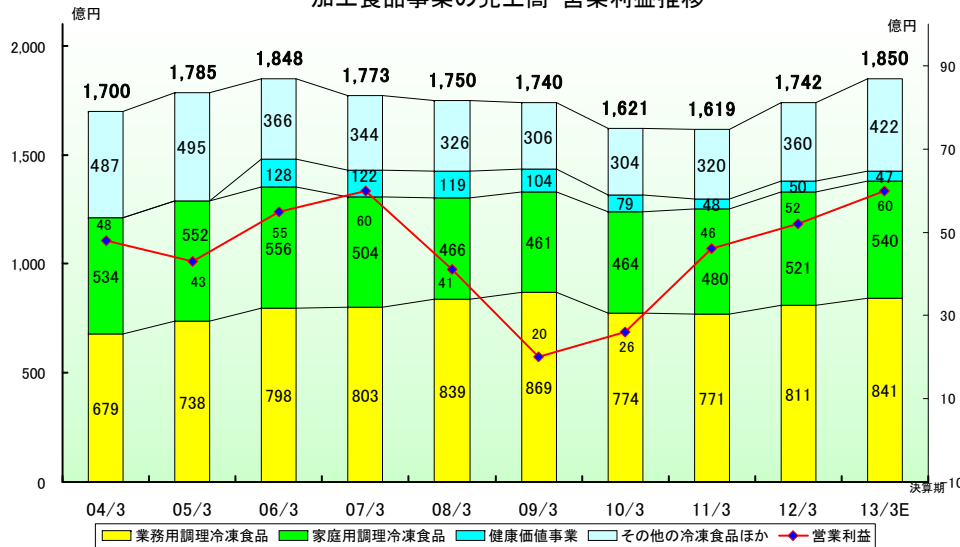
セグメント別売上高の推移



セグメント別営業利益の推移

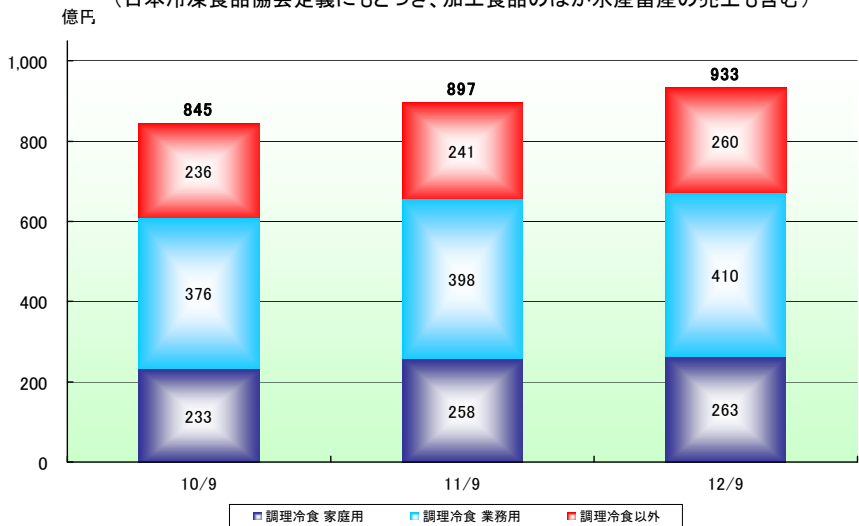


加工食品事業の売上高・営業利益推移

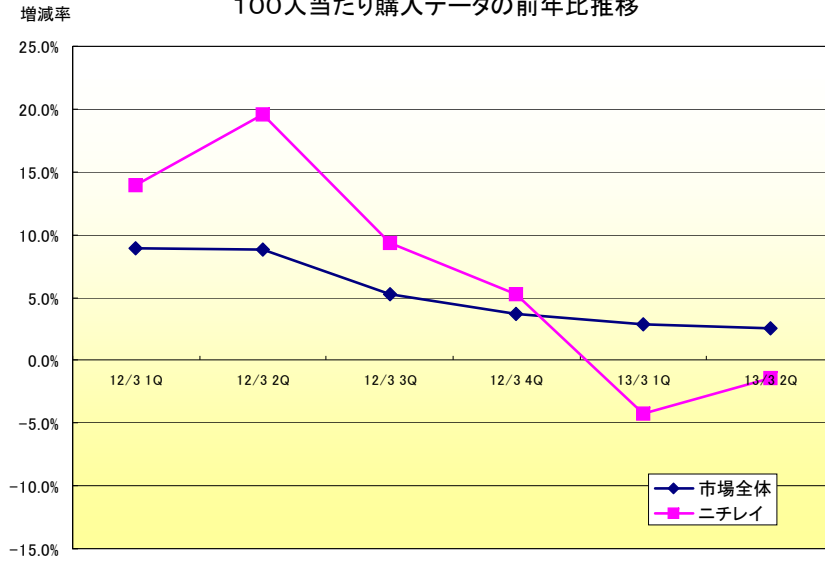


冷凍食品売上高の推移

(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)

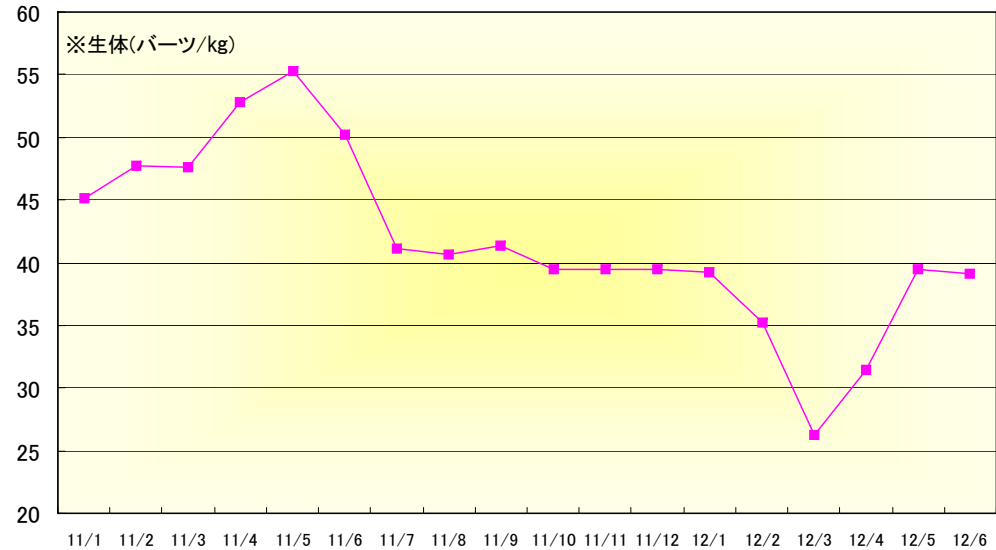


SCI -personal 家庭用調理冷凍食品
100人当たり購入データの前年比推移

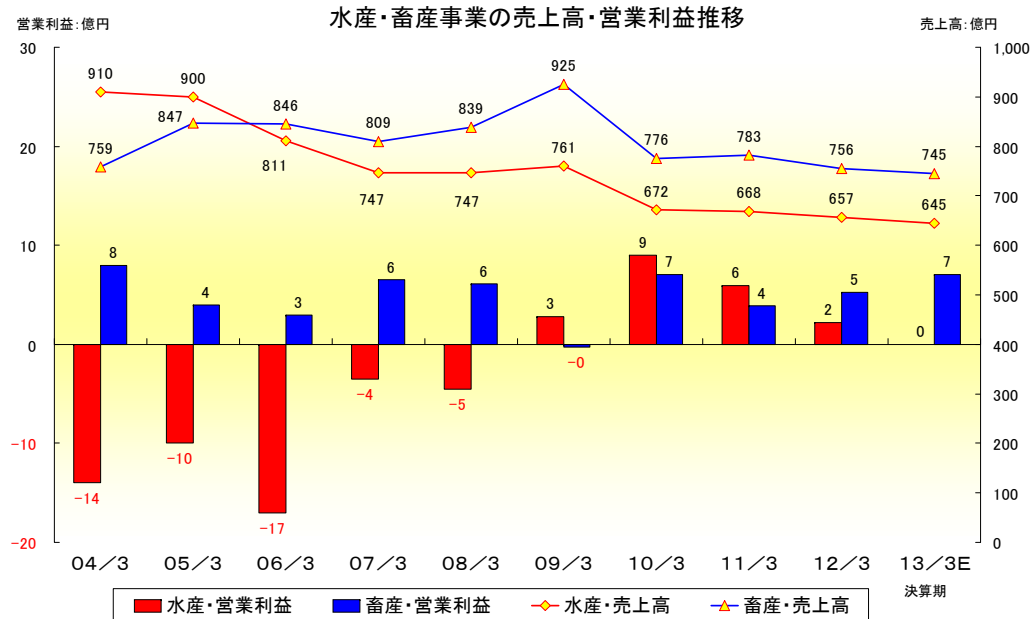


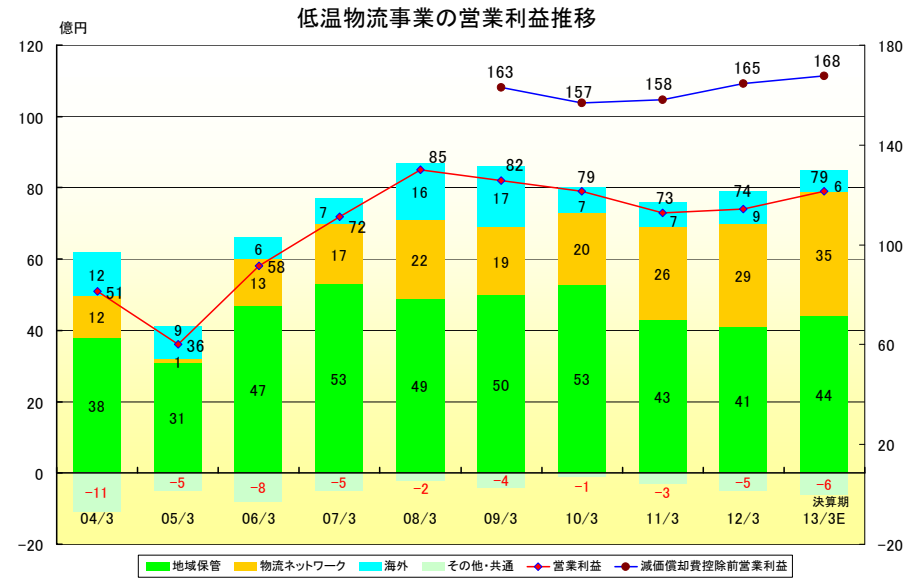
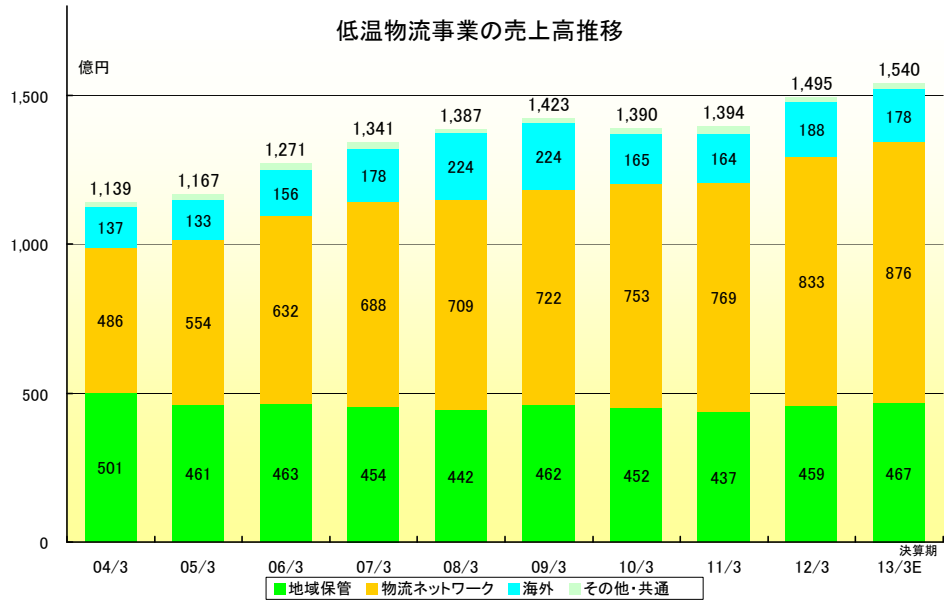
出典：インテージSCI-personal（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同期比。購入ルート＝生協店舗を除く）

単位：パーツ
タイ国内鶏肉卸売価格の推移

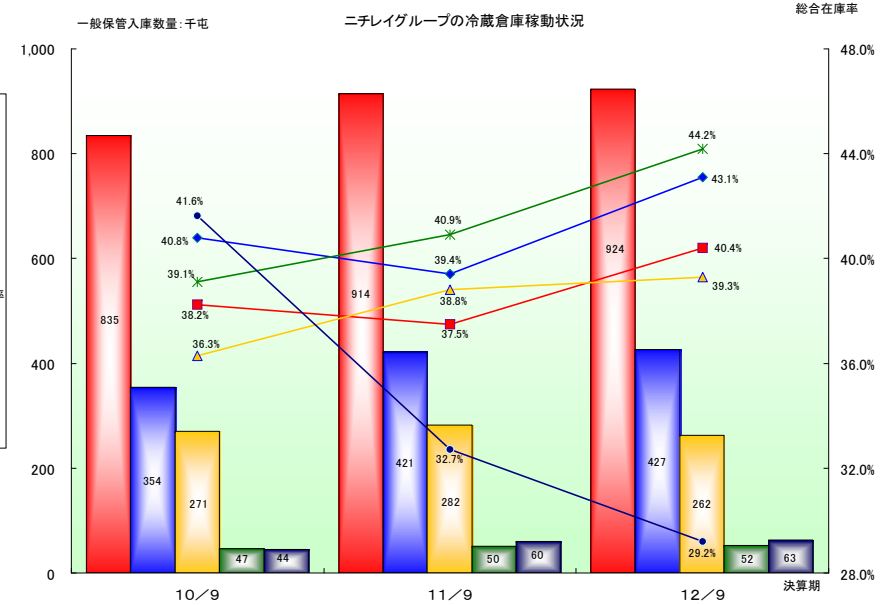
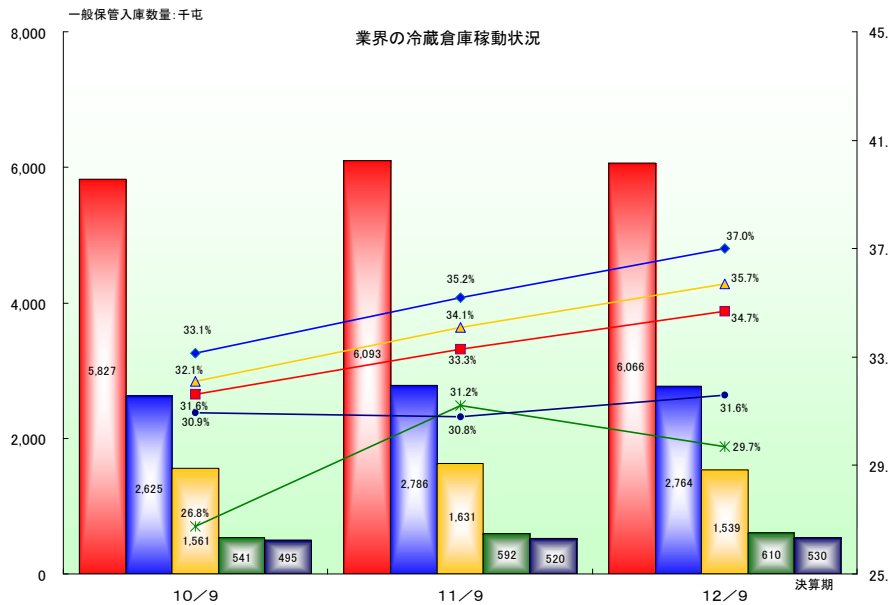


出典：(独)農畜産業振興機構(alic)発表のデータを当社が加工





冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



注: 在庫率とは冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる。

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。